

助産師出向事業の実施状況報告

実施施設	病院→診療所
出向助産師	①助産師歴19年 分娩介助件数 150件 ②助産師歴 7年 分娩介助件数 80件 ③助産師歴16年 分娩介助件数 150件
出向期間	①1週間(令和6年9月30日～令和6年10月4日) ②2週間(令和6年9月17日～令和6年9月27日) ③2週間(令和7年2月10日～令和7年2月20日)
出向者の目標	・妊娠期/産褥期では、母体主体で行う妊産婦教育の在り方や患者サービスの視点で学び、妊娠期からの保健指導や支援について学ぶ。 ・分娩期では、当院では経験できない分娩介助(フリースタイル、側臥位分娩の介助)の実践について学び、手技・技術の習得を目指す。 ・妊産褥婦の身体づくりのための介入、助産技術(内診による診断技術、会陰保護、分娩促進への介助)の習得を行い、分娩進行を自信をもって診断しケアを提供することができる
主な業務内容	・分娩業務介助(①6件②3件③6件) ・助産師外来の見学 ・分娩室物品管理 ・離乳食教室の見学 ・託児所の見学 ・四つん這い分娩見学 ・分娩時記録 ・新生児観察
気づき・学び	・一番の学びは、実際に指導者に分娩介助時に手を添えてもらい、児頭の圧の調整加減を教えてもらったことである。これからは、自分自身がスタッフに手を添えて実演出来る自信に繋がった。 ・立会分娩の際の、パートナーへの肯定的な関り ・内診時は所見を共有し診断技術の整合性を確認できた ・会陰保護より児頭・体幹娩出速度と方向が重要で娩出力コントロールには産婦の努責誘導を陣痛極期を避けて行っていた。
今後取り組みたいこと	(出向元) ・スタッフの分娩介助時に直接手を添えて児頭調整の指導を実施する ・アクティブバース用のクッションの導入 (出向者) ・児頭の誘導方法など分娩介助の実施 ・側臥位分娩の勉強会 ・児頭娩出・体幹娩出時の娩出力の調整を意識した努責のコントロール ・会陰保護オイルの導入、ピーナッツボールの導入。
成果	・出向の報告会を開催 ・新人助産師研修にて分娩介助の実技演習を担当 ・新人分娩介助演習時の指導、児頭・体幹娩出時の助言、必要時手添え介助し技を伝承